3歳児 いちご組 保育案

奈良教育大学附属幼稚園 百村 美代子

1．活動名

鹿苑の鹿に会いに行こう！

2． 子どもの姿と読み取り

・ピクニックに行こうとしている友達がいると同じようにベビーカーやシート、お弁当を持ってきてピクニックを始めたり、ラーメン屋さんをしている友達がいると同じように麺に見立てた毛糸を次々に切ったり、グミを集めている友達がいると同じように集めてジュースやさんが始まったり、年長児の真似をしてリレーが始まったりなど何人かが始めた楽しそうな遊びに一気に人が集まって大人数で遊ぶことが増えてきた。楽しそうな遊びに自分から入り、みんなと同じようなことをして遊ぶことが楽しくなってきているようだ。今までしなかった遊びに入る子どもが増え、遊びの経験の幅も広がってきている。楽しかったことを覚えていて、今日もしようと楽しみに登園してくる子どもも多い。何日か経ってからも思い出したようにまた遊び始める。楽しかった満足感が積み重なってきているようだ。

・一学期から鹿が好きで、幼稚園から鹿が見えることを喜んで見つめたり、鹿の赤ちゃんが生まれた時には、大学に見に行ったりしていた。そこで、どんぐりをあげたり愛護会の人に話を聞いたりしてより関心を高めたり親しみを深めたりできるように、鹿苑への遠足を計画した。子どもたちにそのことを伝えるととても喜んで、どんぐりをたくさん集める子どももいた。「もっといっぱい持ちたいからかばんいるわ！」と途中で保育室にかばんをとりに戻ってまた集める姿があった。年長児がハロウィンごっこを始めて保育室にお菓子をもらいにきたので、たまたま作ったどんぐりをセロファン紙に包んだ“どんぐり飴”にときめき、どんぐり飴作りが楽しくなった。どんぐり飴、なくなるとどんぐりを探しに行き、見つけるとまた戻って作り、給食を食べた後も、「たいよう組の子が来るから作らなくちゃ！」と慌てて作っていた。片付けの時には、毎回もっと遊びたいと片付けを嫌がる子どもが多いが、みんなで集まって歌ったり話をしたりすることがとても好きなので、自分なりにここまで、と折り合いをつけて保育室に帰ってくることができる子どもが増えてきた。少し先のことに期待感をもって遊ぶことが楽しくなってきているようだ。

・身近な生き物への興味が高まり、ダンゴムシや蝶を追いかけたり捕まえたり、うさぎや亀に餌をあげたりすることを喜んでいる。まだまだ実際に生き物に触ることは怖い子どももいるが、飼育しているダンゴムシを見たり霧吹きで水をかけたり友達が餌をあげたり触ったりする様子を見たりしながら、それぞれのペースや距離感で親しみを感じてきている。「亀さんはハムが好き」「（ウサギの）るるちゃんはたんぽぽの葉っぱが好き」と、実際に餌をあげてみてこの子はこれが好き、ということを肌で感じて、かめ、うさぎという大きな括りではなく、この子はこうだと目の前の個を意識して親しみを感じている子どももいる。

・4月から幼稚園の裏門の近くにいる鹿を時々見ていた。飼育しているかめやウサギのように餌をあげたいという子どももいたので、保育者も一緒に鹿について調べ、ずっと昔から人間と仲良く暮らしてきていること、赤ちゃんに人間の匂いがつくとお母さんが世話をしなくなることがあること、神様の遣いとして大事にされてきたこと、そのために餌はあげないで大事に見守る方がいいことなどの話をした。飼育している生き物と、野生動物、天然記念物との違いの理解はなかなか難しいが、身近な生き物として鹿に親しみを感じてかわいいと思っている子どもは多い。6月には赤ちゃんがいることに気づいた子がいて、大学構内へみんなで赤ちゃんを見に散歩に行った。雨上がりだったので、鹿の足跡があり、大きい足跡と小さい足跡があることに気づいて赤ちゃんの小ささを実感したり、かわいい赤ちゃんを見て親しみを感じたりしていた。

目指す子どもの姿

・自分も自分の周りの人も生き物も大切に思える。

・身の回りの環境に関心をもってかかわろうとする

・自分と同じ部分も違う部分もおもしろいと受け入れられる。

◎ねらい

・自分なりの思いをもっておもしろいと感じたことを存分に楽しむ。

・保育者やお気に入りの友達と同じようなことをして遊ぶことを楽しむ。

・遊びや生活の中で、少し先のことに期待をもってやってみようとする

3．評価規準

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
① じっくりと鹿を見ておもしろいと感じる。 ② 赤ちゃんの時にはなかったつのや大きさの変化、個体による違いなどに気づく。 ③	① 自分で気づいた鹿の特徴について保育者や友達に身振りや言葉で伝えようとする。 ② 鹿の気持ちを自分なりに考えようとする。	① 鹿に興味をもって見ようとする。 ② 鹿のためにどんぐりを拾おうとする。

4．環境構成

・活動内容の設定理由

・子ども達にとって鹿は身近な存在で、園内でも裏門のところから大学にいる鹿を見ることができる。4月に入園したばかりの頃から、よく裏門に鹿を見に行き、不安な気持ちが和らぐ子どももいた。6月に赤ちゃんが生まれた時には、大学構内までみんなで見に行ったことで、親しみを増してきた。7 月に入ってつのが生え始めたことに園内から見ていて気づき、また見に行きたいという子どもがいた。また、鹿はどんぐりを食べることを母から聞いて、自分も鹿にどんぐりをあげたいという子どもがいた。大学や奈良公園にいる鹿は野生動物なのでどんぐりをあげることはできないので、鹿苑に保護されている鹿にどんぐりを届けに行くことを提案した。鹿苑に行くことで、より近くで見てどんぐりをあげることができ、かわいいと思うだけでなくケガをしたり病気になっていたりする鹿についても目にすることで、鹿と人間と共存していくことについても考えるきっかけになると考え、この活動を設定した。

5. ESD との関連

・活動を通して養いたい ESD の視点

Ⅰ多様性

赤ちゃんの鹿、角の生えた鹿、自分たち人間、

Ⅵ 責任性

ケガをしたり病気になったりしたら鹿苑で保護されることを知り、大切に守り続けていく存在であることを感じる。

餌付けをすることでどうなるか考える。

・活動を通して主に育てたい ESD の資質能力

・多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

鹿は、野生動物、天然記念物で幼稚園で飼っているかめやうさぎ、ダンゴムシとは違うことに気づく。

野生の生き物との距離の取り方を考える。

コミュニケーションを行う力

気づいたことや感じたことを保育者や友達に伝えようとする。

自分がしたことで相手が喜ぶ姿を見て、相手の気持ちに気づく。

進んで参加する態度

身近にいる鹿に親しみをもって鹿の生態に興味をもって考えようとする。

・ESD で育てたい価値観

自然環境、生態系の保全を重視する（生物多様性の重視）

どこで、何を食べてどのように生活しているのかを知って、生き物の役割について感じる。

幸福感の重視

鹿や鹿の赤ちゃんを見てただかわいいだけでなく、鹿自身の幸福について考えようとする。

・貢献できる SDGs

目標4教育

目標15陸上資源

7.展開

予想される子どもの活動	保育者の環境構成と援助
○園内から大学にいる鹿を見る。 ○鹿の写真を見たり鹿のぬいぐるみで遊んだりする。 ○鹿苑について話を聞く。 ○幼稚園でどんぐりを拾う。 ○鹿苑にどんぐりを持っていく。	・離れてみることで、赤ちゃんだった鹿が大きくなった姿をじっくりとよく見ることができるようにする。 ・角が生えてきていることや体が大きくなっていること、お尻の毛がハートに見えるなど子どもたちが気づいたことをわかりやすいように周りのこどもに広げ、注目できるようにする。 ・保育者も一緒に見つめながら鹿のしていることを知らせたり鹿の気持ちを考えられるように問いかけたりして鹿も食べたりウンチをしたり自分たちと同じように生きていることを感じられるようにする。 ・本物の鹿に触れたい気持ちを満たし、鹿への愛着を高められるように、鹿のぬいぐるみを用意する。 ・他のいろいろな動物の親子の絵本や鹿の写真集などを見やすいところに展示したり、読み聞かせたりすることで、より親しみを感じられるようにする。 ・鹿苑のホームページや動画などを紹介し、奈良公園にいる鹿と、鹿苑で保護されている鹿の違いに気づき、生き物の命について考えるきっかけになるようにする。 ・どんぐりをもらえた鹿の気持ちを保育者も一緒に考えて伝えたり、たくさん集められた喜びに共感したりしながら、鹿苑への園外保育に期待を高められるようにする。 ・とても長い距離を自分たちだけで歩いて来ることができたことを認め、 ・鹿が喜んで食べている姿を見て一緒に喜んだり、鹿の気持ちを想像して伝えたりして自分たちがしたことで喜んでくれるうれしさを感じられるようにする。 ・けがをしたり病気になったりした鹿の治療を見せていただくことで、生き物の命の尊さや責任をもって命を守ることの大切さを感じられるようにする。

◎実際の子どもの姿

角が生えた鹿を見た

角が生えた鹿が近くにいたので、みんなで見た。驚かさないようにそっと近寄る姿があった。角が生えていることに驚いたり、草を食べる様子を見て、「おいしいのかな」とつぶやいたりしていた。

鹿に触れたいという子どももいたが、本物の鹿は触れないので、鹿のぬいぐるみを用意した。かわいがって抱きしめたりいろいろなところに連れて行ったりしていた。

鹿のぬいぐるみを大事に連れて一緒に遊んだ

いろいろな動物の親子の絵本や鹿の写真集などを読み聞かせた。「かわいい！」「（自分も）ママ、好き！」

いろいろな動物の親子の絵本や鹿の写真集を見た

鹿苑についてクラスで話をした

奈良公園の鹿の話や鹿苑について調べて紹介し、鹿苑には、けがをしたり、畑を荒したりして保護されていることを伝えた。けがしてかわいそうという子どもやどんぐりいっぱい持っていこうという子どもがいた。

「どんぐりこっちにいっぱいあるよ！」「鹿さん喜ぶかな。」「もっといっぱいいるんちゃう？」と鹿にどんぐりを届けることを楽しみにたくさん拾った。手に持ちきれなくなってかごを取りに行った子どももいた。

園内でどんぐりを拾った

制服のポケットにどんぐりを入れて鹿苑まで40分歩いて行った。鹿が点滴治療を受けているところや包帯を巻いているところを見て、「かわいそう」「なんでけがしたんかな。」「早く元気になるといいな。」とそれぞれに感じたことを話していた。

鹿苑で施設の人にお話を聞いたりどんぐりをあげたりけがをしている鹿の治療見せてもらったりをした。